

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079300184		
法人名	社会福祉法人添寿会		
事業所名	グループホーム添寿の里		
所在地	福岡県田川郡添田町大字庄1123-1		
自己評価作成日	令和3年7月19日	評価結果確定日	令和3年8月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和3年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

馴染みのある場所での散策や買い物、お花見や紅葉見物、外での食事を予定していたが、コロナ感染症予防のためできないのが現状である。しかしホーム内では、入居者様の能力に応じた家事や趣味の提供等、生きがい・やりがいのある生活と笑顔と笑い声の絶えないサービスの提供を目指している。又、これまでに築いてきたご家族との信頼関係を大切にし、協力を得ながら施設運営を行っている。運営推進会議は偶数月にコロナ感染症感染予防として、書面・電話・FAXなどで毎回違うご家族、地域代表の方、役場、包括支援センターの方を交え情報交換や施設運営についてご協力をして頂いている。特に6月12月の運営推進会議(家族会)では殆どのお家族が参加され活発な話し合いがおこなわれ、会議後の食事も・アトラクション(6月)は皆様大変楽しみにされている一大イベントで、入居者の皆様・御家族とも大変喜ばれていましたが、コロナ感染症予防のため昨年と今年は皆様のご期待に沿えず中止いたしました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「添寿の里」は社会福祉法人を母体とし、特養、老健と隣接されたグループホームで、開設から17年を超えた。田畑や緑に囲まれた自然豊かな立地にあり、敷地も広く開放的で、平屋建ての建物には縁側や和室スペースもある。玄関には入居者と作った理念を掲げた額が飾られ、明るく色彩豊かに彩られ来訪を迎えている。コロナ過で外出機会は減ったが、屋外で密を避けた季節の花見など、配慮した行事を企画している。面会も難しくなったがガラス越しで対応したり、半年ごとのお便りで状況を伝えている。外部の方を招くような行事は休止しているが、内部でできるような誕生会やレクなどは継続している。コロナ前は行事も多く、毎月様々な企画を催していたが、いまはそれも難しくなった。その中でも充実した時間を過ごしてもらえよう、近隣の散歩や施設内の行事に知恵を絞って取り組んでいる。利用者も自分の家のようにアットホームに過ごしてもらい、退去後も家族に感謝され差し入れを頂いたり関係が続いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の玄関に職員と入居者様の作り上げた理念を掲示。 朝礼時に、唱和を実施し新入職者にはオリエンテーションにて説明している。	開設当初に作られたグループホームの独自理念があり、以前より額に入れて玄関に掲示している。最近新たに額装を入居者と作成し刷新した。「あんきにのんきに」という方言のフレーズを大事にし、ゆったりと過ごしてもらうことを心掛けてサービスにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	神幸祭など地域の子供の神幸山を訪問していただくようお願いしている。また、極的に外出、また他事業所の利用者様との交流などを行っている。地域の方の慰問もお願いしている。しかし、現在ではコロナウイルス感染症対策により外出機会が減り交流機会を持てなくなっている。	コロナ前は買い物に行ったり、法人の夏祭りなどで地域住民を招いた大々的なイベントを行っていた。代わりに法人内での事業所間で利用者同士の交流の機会を作った。地域の祭りも自粛されているため、再開後の交流が待たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎週土曜日に施設の買い物を入居者様の状態に合わせて行っている。グループホーム・認知症に対する理解を深めていただく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月1回の会議実施。行政区の区長や地域の各役員・地域包括担当者が出席。近況報告や意見交換を通じサービス改善に向けている。コロナウイルスの感染症対策により昨年5月以降は各会員への書面や電話による情報をもとに開催している。	コロナ前は行政、地域包括、区長、婦人会の会長などを招いて2か月ごとに開催していたが、今は職員のみで開催とし、文書にて報告を行い、情報提供も受けている。従前は家族代表を定めて参加してもらっていた。内容は施設内の掲示板にて掲示報告している。	ご家族に対して、取り組みを知っていただくために、掲示だけでなく、郵送にて会議資料や議事録の報告を行ってはどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括などへ出向き、空き情報を含め、施設の状態を報告。生活保護受給者対応施設でもあり生活支援課担当者とも密に連絡を取り近況を報告している。	添田町役場の職員も、従前は運営推進会議にも毎回参加してくれており、情報提供や報告も定期的に行っていた。担当とも顔なじみであり、何かあった時の質問や報告もしやすい関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の為に検討会議を2カ月に1度実施している。身体拘束は行わず、状況に応じたケアに取り込んでいる。年2回の社内研修を実施し身体拘束適正化の為に指針の周知を行う。	身体拘束廃止委員を施設内で組織しており、定期的開催している。正面玄関も施錠しておらず、利用者が出たがる際には無理に引き止めず見守りなどで対応している。現在も身体拘束の事例はない。動画研修を活用しており、職員が空いた時間などで学習機会を作っている。	

R3.8自己・外部評価表(事業所名グループホーム添寿の里)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する社内研修の実施。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	リーダー・計画作成担当者が中心となり勉強会で職員への伝達・理解を行っている。	入居前から成年後見制度を活用されていた方が以前はいたが、現在はいない。年間の研修計画を定めて、権利擁護についても毎年定期的に研修を開催している。職員も基本的な制度についての理解を進めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様・家族様に納得・理解いただけるように十分に時間をとって説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お気軽に意見や要望を頂ける様、ご意見箱を設けている。また日常的に家族様とのコミュニケーションがとれる関係性の構築。気軽に意見・要望を伝えやすい環境づくりをこころがけている。	入居費の支払いを現金でお願いしており、必ず月1回以上は面会の機会をもってもらっている。意見や要望などはその際に聞くことが多い。コロナ前は年2回家族会を開催し、全家族に参加してもらっていた。半年ごとにお便りを送付するほか、SNSを利用したり、何かある際は電話などで報告もしている。12月にはアンケートも実施しているがお褒めの言葉を頂くことが多い。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3月の職員会議で次年度の行事や、必要な物品の購入等の意見を出しあい、施設長に了解を得るかたちで、施設運営に反映できる体制を作っている。7月と12月に理事長および施設長が直接職員と面談を行うなど、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、ユニットごとと施設全体の会議がそれぞれ、原則全員参加で開催されている。施設長との個別面談の機会が年2回あり、業務についてや相談などコミュニケーションの場になっている。要望についても取り上げてもらい改善につながっている。日ごろも意見が言いやすく風通しのよい環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者と連絡を取り合いながら、職員の意見や提案を把握すると共に、勤務状態を把握し、勤務時間や給与の見直し、頑張っている職員へのねぎらいの声掛けを行なっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年間研修計画をもとにスタッフ全員に対しての技術とスキルの習得機会を設けている。	男女比は1:9程度で、年齢層は20歳代～70歳代まで幅広い。外国からの技能実習生の受け入れもあり、活躍している。休憩時間もしっかり確保され、休憩スペースも設けられている。職員それぞれの持ち味や特異なことを業務に生かしており、ユニット間でも行き来しながら協力してケアに取り組む体制が出来ている。研修案内や資格取得も支援しており、現在は動画配信を利用した研修プログラムを使っている。	

R3.8自己・外部評価表(事業所名グループホーム添寿の里)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重の為に、認知症であっても、トイレ使用時や入浴時に人間としての尊厳を傷つけない教育と啓発を行なうとともに、そういった場面に遭遇したときには、注意と指導をおこなっている。	コロナ前は添田町が開催する人権学習や講演などに参加していたが、ここ1、2年は研修機会が確保できていない。日頃も利用者の人権を尊重した対応を心掛け職員同士で注意している。	外部研修の機会が少なくなったため、人権関連団体から教材などを借り受けて研修を企画している。実現に期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部研修・施設内勉強会を通じて、力量を高め実践に生かせるよう指導している。令和3年5月からオンライン講義を職員全員受けようとした。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所とは勉強会や行事を通じ交流し、情報を共有している。又、福智町のグループホーム協議会に参加し、情報の共有や勉強会の参加を行なっている。コロナ禍で今は交流ができていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中から、本人が困っていることや不安なことを傾聴しコミュニケーションを図りながら、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、入居者が自分らしく生活できるように入居者・御家族要望を傾聴し、また入居後の生活を電話や来訪時に報告をし御家族に安心していただけるよう、関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、御本人と御家族が必要としている支援は何かを傾聴し見極め、本人にとって一番良いサービスは何かを説明し、対応に務めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者の関係ではなく家族と考え、利用者本人が出来る事の支援を行ない、お互い協力しながら、励ましあい暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を支えていくには施設だけでは限度もあり、ご面会・外出や外泊、病院受診などで御家族の協力を得るなど施設の運営に携わっていただいている。また、行事などのご家族の参加を促している。(コロナ禍の中では、ガラス越しでの面会となる。)		

R3.8自己・外部評価表(事業所名グループホーム添寿の里)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家庭と同じような雰囲気を感じられるよう、知人が訪ねてきたときにはお茶やコーヒーの接待を行ない、帰りしなには今後も訪ねていただくようお願いしている。又、馴染みの場所への買物や地域の行事への参加等の支援にも努めている。(コロナ禍の中では、葉書や電話のやり取りを行っている。)	家族以外でも面会を受けることは多かったが、コロナ禍では難しくなり、今は手紙や電話のやり取りにしている。町の文化祭や敬老会にも従前はほぼ全員で定期的に参加していたが今は休止されている。同様に一時帰宅や家族との外出も以前はしていたが、今は行っていない。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でトラブルが発生しないように食堂の席を変えたり、職員が間に入って会話をしたりして問題解決に努めると共に、レクリエーションや行事を通して仲良くできる環境作りに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、次の居場所の支援を行ったり訪問したりとご家族との電話などにより、状況確認や不安事の相談に乗ったりして、不安を解消し安心していただき、関係を継続する支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族や本人の希望や思いを聞き取り、意向の把握に努めている。また、困難な場合は本人サイドで物事を考え検討している。	意思疎通の難しい方は日ごりの様子や、家族からの話を元にして推察し、本人本位の希望の把握に努めている。入居時には計画作成担当が家族から聞き取った情報をアセスメントに記録している。現場の職員の意見もカンファレンスなどで集約し情報収集につなげている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様や本人の情報を諸機関から収集し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族からの情報、諸機関からの情報提供を参考にするとともに、利用者と共に生活していく中で、残存能力の確認をしながら利用者個々の心身の状態の把握に努めている。また、朝礼・終礼時に1日2回観察記録を申し送りしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や御家族の意向を反映し、その人らしい生活が送れるよう、職員間で意見やアイデアを出し合い、看護師や主治医の意見などを共有し、現状に即した介護計画を作成し、見直しを行いながらチームケアに取り組んでいる。	主に各ユニットの計画作成担当がプラン作成を担うが、ケアスタッフも担当制で分担し、居室管理、毎月のモニタリングなどを行う。ケアプラン目標の実施管理も毎日行っており、プラン内容の共有もなされている。プラン見直しも半年で行い、看護師にも参加してもらっている。	

R3.8自己・外部評価表(事業所名グループホーム添寿の里)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にその日の状態や精神面を記録している。業務日誌・会議録・受診ノートなど各種の申し送りノート等で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族の意見や要望を可能な限り聞くように心掛けており、お互いが協力し、いつでも話し合える体制をとつつ、本人・ご家族の状況に合わせて柔軟に対応し、安心して生活していただけるよう努力している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃より、役場・地域包括支援事業所や各施設とのコミュニケーションを図り、安心して豊かな生活を楽しみながら送れるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人・御家族の希望を大切にしている。こちらの協力病院に納得が得られた場合は、常緑病院の往診となり、他科受診の場合は御家族対応での受診をお願いしている。御家族が対応不可の場合は、職員対応で受診をしている。	家族や本人の希望があれば、通院の家族支援を基本として以前からのかかりつけ医も継続してもらえる。訪問診療が毎週行われており、普段からも電話相談に対応してもらえ、家族ともコミュニケーションがよくとられ安心されている。系列事業所の看護師も2週に1回訪問され、健康管理につなげている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の生活の中での変化の状況を記録した記録表を週2回看護師に提示・報告し、適切なアドバイスを受けられるように協力し支援を行なっている。また、緊急時においても看護師に相談し受診をしている。ホームで処置できる範囲では看護師に連絡しその都度対応ができています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師・ソーシャルワーカー・看護師とのコミュニケーションを図り、治療の経過にあわせ本人がどのような状況にあるのか意見交換や相談を行い、病状が安定した状態になれば1日でも早く退院ができるよう目指している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の説明は行っている。重度化した場合で終末期にあたる場合は家族と介護職員・ケアマネージャーを交え、掛かり付け医のアドバイスを受けながら、本人にとって何が一番良いのかを話し合い、方針を共有し、地域の関係者と共にチームで取り組んでいる。	本人、家族の希望があれば看取り支援まで行う方針であり、これまでには数人の方を見送ってきた。状態が悪化して対応が難しくなった場合は設備の整った隣接の特養に転居してもらうことも出来る。年1回はターミナルケアについての内部研修も行っている。	

R3.8自己・外部評価表(事業所名グループホーム添寿の里)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	朝礼や終礼、職員会議の時に、急変時の対応や事故・ヒヤリの報告をし、事故に対しては対応の反省を行い危機感を共有し、再発防止に努めている。又、AEDを設置し緊急時に対応できるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練と9月には防災訓練を実施している。毎回、違った設定で訓練を行い、色々なケースに対応できるように訓練を行っている。又、近隣には施設が多く協力体制を作っており、火災通報装置も自動で他施設に伝わるようになっている。	訓練はグループホーム単独で行っているが、通報時は全施設で共有されるようになっている。備蓄物も確保しており、水、食料品などを1日分程度備えている。平屋建てのため緊急時の避難もしやすい。特段警戒地域にも入っておらず、これまでも災害に合うようなことはなかった。AEDの設置もあり救命訓練もされていた。	コロナ禍では難しいが、今後は地域との防災協力体制の構築についても進められることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であり、その方の人格を傷つける事のないよう一人一人を尊重し言葉使いに配慮し支援をしている。特に接遇には挨拶・言葉遣い・身だしなみ・態度・表情・言葉のインネーションなど気をつけ対応している。	接遇やプライバシー保護に関する研修や勉強会なども定期的に行っており、話しかける際の声のトーンにも気を配っている。入居時に写真利用を含めた個人情報利用の同意をもらっており、許可だけもらったものだけに留めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を傾聴し、言葉や表情で本人の思いや希望・好きなことや趣味などを把握するように心掛けている。またその中で選択肢を設け、自分で自己決定できるように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の体調や気分により、本人のペースで一日を過ごせるよう、その時々で希望にそって支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や御家族の意向に添い、美容室に定期的に通ったり、出張理容を活用している。特に、外出や行事のある時には、女性は全員お化粧をし、男女とも社会人として恥ずかしくない整容をするよう心掛けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋ずるの皮むきやつくしの袴りなどを楽しみながら季節を感じて頂いている。本人の能力に合わせ、片付け、テーブル拭き、お茶碗洗いを手伝っていただいている。	法人で契約する管理栄養士が管理したメニューと食材を元に、職員が持ち回りで担当して事業所内で調理している。利用者にも配下膳や下ごしらえなど出来ることを手伝ってもらっている。職員も同じメニューと一緒に食事しているが、コロナ禍では場所を分けている。	

R3.8自己・外部評価表(事業所名グループホーム添寿の里)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー・刻み・普通食等本人の状態に合わせ加工し、栄養士の献立によりバランスの取れた食事を提供し、摂取量をチェック表で確認している。。又、水分の摂取量にも気を配り、水分摂取確認表に記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科往診により口腔内のチェック。月一回スタッフへの口腔関連の指導。毎食後、声掛けや介助を行なう事で歯磨きを行ない、口腔内の清潔を保つと共に、入れ歯の洗浄や消毒等、入れ歯の管理に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個人の排泄パターンを把握し、一日中オムツをしなければならないのか、どの程度の声かけを行えば日中は布パンツとパットで生活できるか、夜間のみオムツで対応できないのか等、ケース会議を行い排泄計画を立て、排泄の自立に向けた支援を行なっている。	自力排泄の出来る方は本人の意思を尊重して見守りなどで対応し、管理の必要な方は定期的に声掛け、介助を行うことでトイレ排泄につなげている。バイタルなどと合わせて排泄チェック表で管理しており、会議などで情報を共有し、トイレ誘導のタイミングなども随時柔軟に検討している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取促しや運動などにより腸の活発化を促し、自立排便の支援。 排便状況・排便日数確認を行い主治医指示のもと緩下剤服用実施。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週3日の入浴をして頂くよう、月・水・金組と火・木・土組とに分け会話を楽しんでいただき入浴支援を行っている。入浴拒否をされた時には翌日に変更したり時間を置くなど本人の意にそっよう配慮し、気持ちよく入浴して頂いている。又、毎日入浴したい方には本人の希望にそっている。	概ね午前中に入浴してもらっている。ユニットバスにて個浴で対応する。状態により入浴対応が難しい方には隣接特養の機械浴にて対応することもできる。皮膚観察や健康管理の場としても役立て、何か異常がある際には医師や看護師にも報告する。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は安静時間を設け自室で休息していただき、夜間は睡眠状況を把握し、生活のリズムが崩れぬよう努めている。夜間1時間毎の巡回実施。室温・湿度の管理を行う。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れ・服薬ミスのないよう職員2人で確認して、再度服薬前は服薬袋を確認し声に出して読み上げ、服薬チェック表の数を確認し管理実施。状態変化等は主治医に報告して主治医の指示のもと対応している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものを畳んでいただいたり、配膳や下膳・お茶碗洗いを手伝っていただいたりして出来る事を楽しくしてもらえよう配慮。。また、日曜日には外掃除もしていただき、気分転換を行っている。		

R3.8自己・外部評価表(事業所名グループホーム添寿の里)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調考慮の上、近隣の散歩や買い物等の外出の機会を設けている。ご家族と外出・外食も気軽に行けるよう配慮している。現在は、コロナウィルスの感染対策により、ご家族との接触を避け、玄関先でのお茶会など気分転換できるよう工夫している。	コロナ前は行事も多く、家族との外出などで戸外に出かける機会もあったが、現在は控えている。季節の花見など密にならないような屋外の外出先を選択して楽しんでもらっている。日ごろは敷地内での外気浴や散歩などで外に出る機会を作っている。歩行状態の悪い方や意欲低下の見られる方にも働きかけて連れ出している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度自己管理できる利用者にはお買物の時にお金を所持していただき、職員立会いの上購入物の選定や支払いを行なっていたり、等の、買物の支援を行なっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話を取り次いだりして、要望に極力応じている。また、葉書などでやり取りができるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に表札を付け、外出時や行事の写真やお誕生会の写真を廊下に展示し自室にはお誕生者の膜字や色紙など飾ったりしている。文化祭では入居者様の絵画や作品も展示したり、季節の花を飾ったりしている。ホールは四季折々に模様替えをし季節感を味わっていただいている。	玄関前のホールは四季を感じられるような飾りつけを職員が工夫を凝らして行っており、着物やドレスなど華やかに来客を迎えている。調査時は浴衣と風鈴で涼やかに飾られていた。各ユニットは概ね左右対称に配置されており、飾りつけなどは特色をもってそれぞれで行っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にはソファを設置。また玄関先に長椅子やテーブルを設置。玄関の入り口にはベンチや椅子をを設置し、両館気の合った利用者で会話が弾んでいる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が落ち着いて生活できるように、収納可能な馴染みのある家具等を持参して頂き、御家族と本人の意向を踏まえ配置している。又、本人と御家族や孫などの写真を掲示できるように、各戸には掲示用のボードを備え付けいつでも写真や絵葉書などを貼り付け眺められるように配慮をしている。	家具などの持ち込みは自由だが、収納スペースも広いため備え付けのものを使う方も多い。セミダブルの畳ベッドが備え付けられており、布団で休まれている。椅子、テーブル、テレビ台もあり、持ち込む方もいる。腰高窓からの採光や風通しもよく、開放的な造りである。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者のお部屋入り口には、見慣れた動物の部屋名(東館)やお花の部屋名(西館)と自分の写真入の名札を掲示し、部屋を間違えないように配慮をしている。又、トイレやお風呂には、ドアにお風呂やお手洗いの室名表示を貼り付けトイレを探して徘徊したりする事のないように工夫をしている。		